



岡山県議会議員

太田まさたか

おおた

プロフィール  
昭和39年生まれ 56歳  
〈役職歴〉土木委員会委員長、農林水産委員会委員長  
総務委員会委員長、県監査委員  
(選挙区岡山県北区・加賀郡)

県政だより 令和3年 春号 VOL.45

編集責任者:太田正孝 岡山市北区延友455 TEL.(086)201-5523

ワクチン接種を予定通り進める為に、

平素は私の議員活動に温かいご理解ご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

この県政だよりを二月定例県議会が閉会して編集をしています。新型コロナウイルスの感染がピークを迎えている頃どうなっているのか、とても気にかかっています。現在、ワクチン接種が順次進められています。ワクチンが計画通り届くように、政府は、ワクチン入手に全力投球で取り組んでおられますが、ここは何が何でも頑張っていたいかなければならないところです。岡山県も、三月十日にワクチン接種相談窓口を開設し、四月からは、岡山県保健福祉部、岡山県所管の保健所の人員を増員して、対応強化に努めています。私も、県議会から、感染拡大防止策と医療提供維持の取組がしっかりと行われるように後押しをしていきます。

さて、もう一つの課題のデジタル化についてです。デジタル化が世界中で急速に進んでいっています。どう展開するかは専門家ではないので、その議論は差し控えますが、どれくらいのスピードなのかという事は知っておくべきではないでしょうか。

この点について、先日、知人から示唆をもらいました。彼の話の主旨を紹介します。固定電話、携帯電話、スマホのそれぞれが普及に要した時間は、二十〜三十年、約十年、約五年であった。前回オリンピックからのこの半世紀で大きく変わっているけれども、ここ数年の変化のスピードは加速している。今の流れからすると、ここ数年よりも、これからの二〜三年の方が遙かに変化する可能性がある。彼の話について、私は異論を唱えるものではありません。これからの二〜三年の変化とは何かをキチンと予測することができれば、岡山県政の舵取りも良いものになるでしょう。

その舵取りの羅針盤となる岡山県の諸計画が、二月定例県議会前に公表されました。第三次晴れの国おかやま生き生きプラン、岡山県人口ビジョン改訂版(素案)、第五次おかやまウイズプラン(素案)、岡山県中山間地域活性化基本計画、岡山県国土強靱化地域計画、第四

次岡山県消費生活基本計画(素案)などです。どこまで社会の変化を予測しての計画となっているのか、私なりに分析をし、今盛り込むべきものが入っていないければ、入るようにと所属する県議会の総務委員会が発言してきました。何らかの形で盛り込まれたと感じることが出た部分も多くあります。

今年、私が生まれた昭和三十一年(前回東京オリンピックが開催された年)のように時代の転換点になるのではないかと感じています。岡山県は、あの時代に、いくつもの事業を成功させ、地域社会を大きく発展させたように、今回も、しっかりと舵取りがなされるようにしておきたいと考えています。二月定例県議会は閉会しましたが、令和三年度が明るい未来を感じられるような一年になるように、日々の活動に精進して参りたいと考えております。今後とも、皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

岡山県議会議員 太田 正孝

あらゆる努力を

二月定例県議회를振り返って

(会期 二月二十二日〜三月十九日)

二月定例県議会では、今後の県政の方針がなされた。提案された令和二年二月補正予算(案)二九六億四六〇〇万円の減額、令和二年二月補正予算(案)三七七億三六〇〇万円と令和三年度予算(案)一兆一七九億四二〇〇万円から、新型コロナウイルスシフトと県庁のデジタル化推進の色彩を強めていくものとなっていることが窺える。

一点目の新型コロナウイルスでは、医療体制を守るといふ観点から、保健福祉部の新年度予算が増額となっている。また、補正予算にはワクチン接種費用が盛り込まれている。もう一つの、デジタル化の推進では、政府のデジタル化推進に連動させて、県庁のデジタル化を進める方針を打ち出している。そのデジタル化推進の為に組織の新設(人員は四人)が行われている。ここを元に推進体制を整えようとしている。そして、民間におけるデジタル化の後押しを図ることを計画している。

この二点に焦点を当てながら、一般質問を三月三日に行いました。大項目として、新型コロナウイルス感染症拡大対策、令和三年度当初予算、専門高校での高性能ICT機器の購入の三点を取り上げました。その内容を皆様にお伝えをします。最後までお読みください。幸福です。

新型コロナウイルスに関して

第三波が大きな波になった

要因について

昨年、政府から「大切な三週間」という呼びかけがなされたが、これまで一番大きな第三波になってしまった。第一波、第二波を通して、

多くの人の間に、慣れが生じていたことが、原因の一つと考えられる。岡山県においては、感染者が二桁を切る日が二月十三日から三月三日まで続いているが、このまま第四波が起らないようにする為には、どのようなことが理由で医療非常事態宣言を五十四日間も発令をしなければいけない第三波になったのか、その要因を県当局として整理しておくべきであると訴えた。ついでには、どのように整理されているのかということを知事に訊ねた。

知事からの回答は、全国的な感染拡大の中、年末年始にかけて、人の移動や会食の機会が増えたこと、相次いでクラスターが発生したことなどが、大きな要因であり、今後の対策に役立てていきたいという内容だった。この教訓は、今後に活かさなければならぬ。

六七二億円強が予算措置されている「感染拡大防止策と医療提供体制の整備」について、死亡の要因は

二月四日、東京都のモニタリング会議で、国立国際医療研究センターの大曲貴夫国際感染症センター長は、昨年十一月までに発症した都内の感染者のうち三六四六六について分析し、入院時に新型コロナウイルス感染症が重症だった場合、固形悪性腫瘍では四十二%、慢性呼吸器疾患では四十一%、心疾患では三十七%、脳血管疾患では二十七%が死亡、症例が少ないものの「重症腎疾患または透析」は半数が死亡、糖尿病は十八%、高脂血症や高血圧、気管支ぜんそくの死亡率は十%前後、基礎疾患がなければ三%、入院時に軽症だった場合の死亡率は固形悪性腫瘍が十四%、

脳血管疾患が十三%、心疾患が十%と報告している。また、取材に答えて、「入院時に軽症でも死亡するリスクが高い傾向にある」と述べられた。岡山県では、これまでの感染者数が約二五〇〇人だが、死亡傾向が現れているのか、保健福祉部長に訊ねた。

クラスター拡大の理由は

県内の第三波ではクラスターが多く発生しているが、これまでクラスターがなかなか終息しないケースが津山や岡山、倉敷などで、幾つかあった。何故クラスターの拡大が起きたのか、併せて、今後については、どのような対策を打ってお考えなのか、保健福祉部長に訊ねた。

保健福祉部長の回答は次の通りであった。



保健福祉部長が回答をしている様子

を持って決定されているのか、保健福祉部長に訊ねた。  
保健福祉部長は、「入院治療が必要な療養患者について、まずは原則として、医療資源が充実している重点医療機関が受け入れ、重点医療機関の入院患者が増加した場合には、受入医療機関が受け入れるなど、効率的な入院調整を行っている」と回答した。

### 転院の入院調整について

現在、集中治療室におられる重症患者や肺炎の症状で酸素投与などが出来る治療室を使用している中等症の患者等について、その症状が改善し、人工呼吸器が外れるなどしても、転院先が見つからないことが医療逼迫の一因との指摘がある。また、PCR検査で陰性反応に改善しても、家族が帰宅を拒み、入院が長期化したケースもあるとの報道もある。

そのなかで、代表質問で、症状が改善した患者の転院調整を行っていくことが明らかになった。私は高く評価しているのかということが大事だ。

それでは、医療非常事態宣言発令中は、何か所の転院先に何床のベッドが確保されていたのかを保健福祉部長に訊ねたら、保健福祉部長からの回答は、「医療非常事態宣言中の転院先ベッド数は把握していない」。

続けて、転院先への補助制度を六都府県が創設しているが、本県は制度を持っていないのかと訊ねると、保健福祉部長から、「そうした制度は設けていない」との回答。

さらに、今後、どのようにして転院先を増やしていく考えはあるのか、訊くと、保健福祉部長は、「後方支援医療機関の確保に向け、診療報酬上のインセンティブなどの周知に努めていきたい」と回答。

また、入院／転院調整作業については、サイトを設けてオンラインでされているのか、それとも電話やファックスでされているのかと質問すると、保健福祉部長は、「個々の患者に応じた細かな情報を共有することが必要であるために、医療機関同士での電話等

よる対応を基本としている」と答弁した。

それでは、今後は、どういうカタチで入院調整を行うのかと訊ねると、保健福祉部長は、「今後とも、より円滑な転院調整に向けて、医療機関の求めに応じて相談支援に努めたい」との見解を示した。この答弁に対して、全体をまとめたものをオンラインで見ることが出来るようにした上で、個別のこととは電話で連絡調整をすべきではないかと訴えると、保健福祉部長は、現在でもメールを使って情報を流していることと再答弁した。

### ワクチン接種は？

岡山市は高齢者向け接種を三カ月で終えたいとの意向を発表しているが、二十七市町村のワクチン接種計画はいつごろまでに策定をされる予定なのか、保健福祉部長に訊ねた。

保健福祉部長の回答は、市町村は国から三月半ばの策定を求められていて、現在、接種会場の確保などと並行して進められているというものであった。

続けて、基礎疾患のある方は、自己申告とならざるを得ないと受け止めているが、気にかかる人は全員対象になるのかどうか、それとも死亡リスクが高いとされる慢性呼吸器疾患や固形悪性腫瘍など、特定の基礎疾患の方に絞られるのか、そして、どのように申告するのかを保健福祉部長に訊ねた。

保健福祉部長の回答は、慢性の呼吸器疾患や心臓病に該当する方は、予約の際の自己申告により、接種順位が上位に位置づけられることになるというものだった。基礎疾患者が「上位」になることがよく分かった。この先は、これから、別な場面で訊ねていきます。

### 特措法改正で、追加された「まん延防止等重点措置」の運用は？

新型コロナウイルス感染症に関して、特措法の改正が行われた。特措法改正の狙いの一つは、緊急事態宣言を発令されるまでに至らないように、地

域を絞って予防的な措置を講じることにある。そのエリア指定の範囲は地方に任せられている。

それでは、地方はどのように決めるのか、そのような疑問を持ち、一般質問で取り上げることになった。

今回の質問で、とくに気になったのが岡山市だ。現在、岡山市は、人権問題が起きてはいけないとのこと、この区で感染が起きているのかは公表を控えている。

法律は市町村単位、政令市の区単位のエリア指定も想定しているはずだが、岡山市については、どちらを選ぶのか、それとも、効果が期待できるならば、もっと限定的に繁華街というエリアを指定することも可能なのか、運用の範囲について、保健福祉部長に訊ねた。

保健福祉部長から、「知事は区域を定めるに当たって、効果的な対策になるように、地域の感染状況に応じて、国や該当市町村と緊密に連携しながら、適切に運用していきたい」との回答があった。

この回答は、大切な三点を押さえている。「効果的であること」、「地域感染状況を把握すること」、「国や市町村と連携すること」の三つである。岡山市は、この三点を踏まえて、エリア指定を行うことを約束してくれたと私は受け止めました。



## 新型コロナウイルスで苦しんでいる中小法人等への支援策を創設 事業費四十億円

二月定例会県議会途中で、新型コロナウイルス禍で影響を受けている飲食店を含む中小企業等に対して、法人に四十万円、個人事業主に二十万円を支給する県独自の支援制度を創設しました。

対象条件の一つが、一〜三月のいずれかの売り上げが、昨年または一昨年の同じ月と比べて三十%以上ダウンしていること。他にも、県内に事業所を持ち、感染を防ぐ「業種別ガイドライン」を順守していること。国の一時支援金を受けける場合は対象外などとなっている。

それでは、対象企業数はどれくらいなのかと総務委員会で質問をすると、法人約六二〇〇社、個人事業主約六六〇〇人であるとのことでした。また、申請時期、支給時期を訊ねると、申請は四月下旬から、給付開始は五月下旬以降となる見込みとのこと。また、人員体制についても質問をすると、コールセンターの設置も検討しているとのことでした。予算額は、四十億円となっています。

今回の対応については、令和三年度当初予算審議中での、令和三年度補正予算という異例の展開である。その背景については、代表質問、一般質問で多くの議員が事業者支援の問題を取り上げられたことになったのではないかと考えられます。どこから、この四十億円ともう一つの「おかやま宿泊応援キャンペーン三億六千万円」が出るのかという点については、国の第三次補正予算のなかから岡山県に手当てされる予定になっているとの説明がありました。予定額としては、あと約十九億円ということも聞きました。

## 当初予算に関して デジタル化推進体制は？

今定例会議会の代表質問で、デジタル化の推進について、全庁的な連携のための体制を整備して行くことを明らかにされた。私としては、教育委員会がその中に入っているのかどうか、気にかかった。

予算書の説明資料を見ると、デジタル化関連予算四億一八二五万円の中に、教育委員会の事業も入っている。私は、教育委員会も知事が進めるデジタル化推進体制の中に入れて、教育委員会自身もデジタル化を推進する専門部署を新設すれば、教育分野のデジタル化も円滑に推進されると考え、知事と教育長に提案をした。

知事から、教育委員会をデジタル化推進体制の中に入れていく旨の回答を頂くとともに、教育長からも新組織を検討していることを明かしていただいた。

四月一日、県教委は高校教育課教育情報化推進室を新設した。

### マッチング・エコノミー

マッチング事業は四つで、各事業名を紹介すると、「就職応援パワーアップ事業九九四六万円」、「東京二十三区からのIJUターンの就職支援事業一億四一九四万円」、「IT/IoT支援サポーター活用事業六二五万円」、「岡山県 企業と大学との共同研究センター運営事業六一一五万円」である。合計三億八八〇万円となる。

マッチングを行うには、AIの力を借りることを念頭に置かれているのだろうと想像する。どのマッチングにおいても、詳細かつ正確なデータを多く持つほど、良い相性を見つけ出すことが可能になると考えるが、この四事業について、どんな風にマッチングを行うのか、と訊ねた。

知事の回答は、四事業ともコーディネートによる伴走型支援となるというものだった。私の想像していた答えとは違うものだった。

### デジタル化関連予算

社会全体のデジタル化が進展中、県行政においても、各分野でのデジタル化の取組を加速させ、事業をより効率的・効果的なものとする中で、教育や産業など、各戦略プログラムの目的達成に取り組みます。以下に主な事業を紹介いたします。

学童保育プログラム	備かる農林水産業加速化プログラム
<b>ICT環境整備への助成</b> 【新】 (8,301万円) 私立学校が行うICT環境整備の取組に対し、助成します。	<b>ポストコロナマーケティング事業</b> 【新】 (1,111万円) ECサイト・SNS等を活用したデジタルマーケティングの導入により、国内外での販路拡大・販売促進に取り組みます。
<b>GIGAスクール構想の推進</b> 【新】 (1億8,680万円) (P2補正+P3当初) 児童生徒1人1台端末を効果的に活用するため、支援体制の強化や活用方法の研究を実施します。	<b>働く人応援プログラム</b> <b>オンライン就職面接会運営事業</b> 【新】 (941万円) 持続可能な中山間地域等形成プログラム
<b>企業「稼ぐ力」強化プログラム</b> <b>経営革新計画によるデジタル化推進事業</b> 【新】 (4,996万円) 経営革新計画策定企業が計画に基づき行うデジタル技術の導入を支援し、県内企業の生産性向上を推進します。	<b>「暮らしJUIICY!岡山県」購得の国ぐらし推進事業</b> 【新】 (1,800万円) デジタルマーケティング事業によって得られた知見に基づき、デジタルコンテンツや情報発信を強化し、移住・定住を推進します。
<b>5G活用チャレンジIoT研究開発等支援事業</b> 【新】 (1,015万円) 5G利用環境の整備や5Gを活用したIoT等の研究開発支援などを行います。	<b>行政のデジタル化</b> <b>県庁デジタル推進事業</b> (2,998万円) ITを活用し、業務の効率化・迅速化を進めるとともに、先遣・優待事例の調査検討を行い、県庁のデジタル化を推進します。
<b>オンラインによる下請け取引支援</b> (2,103万円) 県外企業の情報に精通した広域専門員により、発注案件を収集し、オンライン商談会を実施します。	

令和3年3月3日 岡山県議会2月定例会 太田議員一般質問資料 出典：令和3年度岡山県当初予算

### 販売促進について

当初予算資料には、販路開拓、マーケティング強化、商談会、プロモーションなどの文字が多く出ています。これらは販売促進に関するものと捉えることができると思うが、こうしたものを挙げてみたい。

「オンライン展示商談会（新規）七〇九万八千円」、「県産品の販売開拓プロジェクト四五三〇万円」、「おかやま販売開拓推進事業四三〇八万円」、「県産農産物のマーケティング強化四六四四万円」、「情報発信強化プログラム五億三〇〇〇万円」、「デジタルマーケティングを活用した戦略的観光プロモーション展開事業一三八八万八千円」。これらを合計すると、六億八八〇万六千円となる。

この販売促進に関する事業は、岡山県を売るといふことと理解していると

また、それらのデータは今後の産業振興に役立てて欲しいと要望すると、知事は、AIの活用可能性も検討しながら、人材の確保・育成や研究開発力の向上等、県内産業の振興に向けた施策の立案に生かしていきたいとの考えを明らかにされた。

また、岡山県のモノや魅力を売るということについて、これまで本県は、デニム、フルーツ、観光という分野に力を入れてきたが、このままのスタンスを継続するのか、今後力を入れて売っていききたい分野はあるのかといった展望について知事のご所見を伺った。

知事は、岡山デニムをはじめとする県産品、高品質な果物、豊かな観光資源と併せて、地方への関心の高まりを踏まえた本県の様々な魅力や優位性についても、さらに発信していきたいとの見解を示された。

### 県庁のデジタル化について

政府は、令和八年までに、デジタルガバメントを構築していくとしてい

断った上で、岡山県は一次産業も二次産業も良いものを作っている。顧客に関するビッグデータを上手く活用して売り方を工夫すれば、売上拡大できると、知事は考えているのではないかと質問した。

知事はデジタルマーケティングを積極的に推進することなどで、それぞれの分野で、売上高の増加や顧客の促進、認知度の向上等、具体的な成果に結び付けていきたいと意気込みを述べられた。

また、岡山県のモノや魅力を売るということについて、これまで本県は、デニム、フルーツ、観光という分野に力を入れてきたが、このままのスタンスを継続するのか、今後力を入れて売っていききたい分野はあるのかといった展望について知事のご所見を伺った。

知事は、岡山デニムをはじめとする県産品、高品質な果物、豊かな観光資源と併せて、地方への関心の高まりを踏まえた本県の様々な魅力や優位性についても、さらに発信していきたいとの見解を示された。

### 英語教師採用

航空会社の社員など生きた英語を使っている民間企業の方を英語教師として特別選考をして採用を図ることに

三月下旬の人事発表で、この三点のところは手厚くされました。

三つ目は、デジタル化の推進など諸課題に対応するための人員についても、それぞれの関係部署で増員を図る。

二つ目は、児童虐待防止対策強化のために、児童相談所職員の増員配置をする。

一つ目は、新型コロナウイルス感染症に対応するため本庁保健福祉部や保健所等に重点的に職員を配置する。

### 電子黒板の採用について

電子黒板を使えば、学級で、図やグラフが動かすことや表示した図にペンで書き込むことも簡単。また、文字だけでなく、映像や音声を活用することで、より多面的な学びも可能になる。

児童、生徒もイメージしやすくなるし、先生にとっても、拡大印刷などの授業準備の時間削減、板書を最小限にすることができ、教えることに集中できるなどメリットが大きいと考える。電子黒板モデル校を指定し、そのメリットを検証していく考えはお持ちかどうか、教育長に訊ねた。

教育長から、一人一台端末を導入している県立高校3校で、新年度、端末活用の研究を行うこととしており、これらの学校では電子黒板機能付きプロジェクトが設置されているので、その効果的活用も含めて研究し、成果を普及していきたいとの答弁があった。

### 農業高校の高性能ICT機器の購入について

二月補正予算（経済対策分）の中に県立学校のデジタル化対応産業教育装置の整備に要する経費十六億五八八〇万円が盛り込まれています。この関係

の質問です。農業高校と工業高校でどうなるのか、取り上げた。

①WiFi環境整備について  
屋外での実習が多い農業高校で、敷地内の農場や牧場までWiFi環境を整備して、実習でタブレット端末等が活用できるようにすれば、生育記録や気象観測データ、病害虫の発生状況等をサーバーに蓄積でき、生産工程を記録、追跡できるようになり、学習効果が高まると考える。今回、WiFi環境の整備は検討されているのかを教育長に訊ねた。

教育長から、二つの重要な話があった。次の通りです。

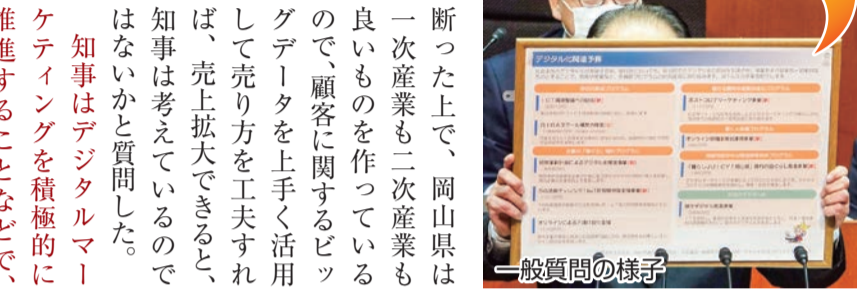
一点目は、農業関連の学科を持つ高校で、モバイルルーターを活用して、タブレット端末からハウス内の温湿度の状態を把握し、生育状況を記録するスマート農業の学習を行っている。

二点目は、今後、より安定した高速通信を実現するため、農場等にWiFiFi環境を整備し、先端技術を取り入れた実践的な教育を推進していく。

今後の展開を温かく見守りたいと思います。

②ドローンについて  
農場でドローンとタブレットを用いて生産物の撮影・育成記録・計算・分析したり、さらには、薬剤散布用の大型ドローンの操縦体験と散布実演等をしたりと、こうしたことができれば、生徒たちの農業への興味が高まり、多くのことを学べるのではないのでしょうか。ドローンを使っている学習について、教育長の考えを訊ねた。

教育長から、まず、農業関連の学科を持つ高校で、ドローンを活用した測量や、上空からの画像による稲の生育状況の分析、農薬散布、ドローンの飛行制御のプログラミング学習等に取組んでいることが紹介された。そして、こうした先進的な学びは、農業人材の育成に必要であると考えていることも明らかにされた。



### 四十一人の職員増員について

二月定例会議会で知事部局職員四十一人増員の条例改正案が提案されている。これまで定数は削減するばかりでしたが、ここで大幅な増員に踏み切るに当たって、どこを手厚くしたいと考えているのか、明らかにしていただきたいとの思いで、この件を質問に取り上げた。

質問の趣旨は、既に各保健所に職員一人を加配することは報告されていることに加えて、新年度予算の中で重点的に注力されるコロナ対策、デジタル部門、販売促進部門などの部署に人員の加配を行うのかというものである。知事から、幾つかの部署を強化するとの方針を聞き出すことが出来ました。

岡山県においては、通常採用の中にアメリカで民間企業勤務経験のある方が、和気閑谷高校の英語教師としておられ、現在、同校での英語のICT教育で大きな力となっている。このことから生きた英語を使える教師がいることは素晴らしいと感じている。現在のコロナ下を考えると、特別選考をして、生きた英語を使える英語教師を増やすことは、採用される側にも生徒側にも良いことと考えるが、この件に関する教育長の所見を伺った。

教育長は、実践的な英語に触れることは生徒の興味関心や学習意欲の向上を図る上で有効とした上で、他県の状況を踏まえて検討していきたいと回答された。

三月下旬、新年度で英語の堪能な民間経験のある方を募集することが発表された。

### 工業高校について

学校にマシンングセンターがあれば、デジタルの図面通りに加工する仕組みを学ぶことができ、それは有益なことだと考える。この購入が実現できればと願うと同時に、マシンングセンターを動作させるに当たってデジタル図面がとて重要であることから、常に最新のソフトウェアに対応ができるような三次元CADシステムも合わせて導入することを願う。できれば、強度解析等が出来るものが良いと考えるが、それ以上に、三次元CADシステムのソフトウェアに関する契約が重要だ。マシンングセンターとの相性が良いという前提の下、ソフトウェアをアップグレードできるような契約にして、ソフトウェアのバージョンアップが出来るようなものを選んでおくべきだ。工業高校でのマシンングセンターと最新三次元CADシステム導入について、教育長の考えを訊ねた。

教育長からは、マシンングセンターと

### 農業高校について

WiFi環境整備について  
屋外での実習が多い農業高校で、敷地内の農場や牧場までWiFi環境を整備して、実習でタブレット端末等が活用できるようにすれば、生育記録や気象観測データ、病害虫の発生状況等をサーバーに蓄積でき、生産工程を記録、追跡できるようになり、学習効果が高まると考える。今回、WiFi環境の整備は検討されているのかを教育長に訊ねた。

教育長から、二つの重要な話があった。次の通りです。

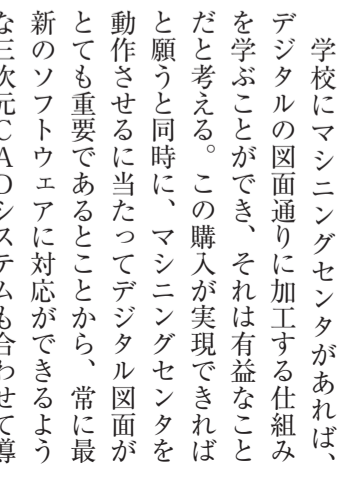
一点目は、農業関連の学科を持つ高校で、モバイルルーターを活用して、タブレット端末からハウス内の温湿度の状態を把握し、生育状況を記録するスマート農業の学習を行っている。

二点目は、今後、より安定した高速通信を実現するため、農場等にWiFiFi環境を整備し、先端技術を取り入れた実践的な教育を推進していく。

今後の展開を温かく見守りたいと思います。

②ドローンについて  
農場でドローンとタブレットを用いて生産物の撮影・育成記録・計算・分析したり、さらには、薬剤散布用の大型ドローンの操縦体験と散布実演等をしたりと、こうしたことができれば、生徒たちの農業への興味が高まり、多くのことを学べるのではないのでしょうか。ドローンを使っている学習について、教育長の考えを訊ねた。

教育長から、まず、農業関連の学科を持つ高校で、ドローンを活用した測量や、上空からの画像による稲の生育状況の分析、農薬散布、ドローンの飛行制御のプログラミング学習等に取組んでいることが紹介された。そして、こうした先進的な学びは、農業人材の育成に必要であると考えていることも明らかにされた。



CADシステムについて最新のものに更新することになっているとの回答があった。また、CADシステムのソフトウェアのアップデートについては、機器の動作環境を踏まえ、必要に応じて検討していきたいとの意向も示された。

### 岡山桃太郎空港について

#### 岡山桃太郎空港について

岡山県は空港づくり基本構想検討委員会を昨年設置しています。この委員会は岡山桃太郎空港の基本構想の案を取りまとめることになっています。委員の任期は令和三年三月三十一日までですが、県議会には、現在のところ、まだ中間的な報告までです。コロナ禍で、将来像を描き難いタイミングであると思います。

しかし、将来のことを考えると、開港して三十年以上が経ち、ターミナル施設の機能強化は待ったなしです。

民営化をどうするかという大きな議論もありますが、今のコロナ下では、国際線について、入国者への感染症検査等をどう行うのか、そもそもそのスペースはあるのかということなど課題があります。空の玄関の在り方について、県議会からも議論をおこしていきたいと考えています。

岡山桃太郎空港



## てくてくまさたか

### とんどまつり(吉備小学校)

一月九日

感染防止の取組をしながら、行われました。



### 高齢者施設訪問(岡山市東区)

一月二十日



新型コロナウイルスの飛沫対策に一生懸命取り組んでおられました。

### マイクロプラスチック

#### ごみの回収に参加

(笹ヶ瀬川) 二月三十日



マイクロプラスチックごみが下流の河川敷に沢山漂着していました。農薬のプラスチック被膜がごみとなっていました。ごみは私たちの営みがどうであるかを正確に映し出しています。対策に力を入れていきます。

### 第三十九回北方領土

#### 返還要求岡山県民大会

(さん太ホール) 二月二日



### 操山高校訪問

#### ICT教育の取組について調査

二月三日

導入している学年の全教室に無線LAN環境を整備していた。全教科でICT教育の導入が図られています。質問した中から二点を報告します。

一点目。全教室で二階に無線LANを使う時に何か問題はありませんでしたかと問うと、そもそもハードの整備において、隣の教室との電波干渉の問題があり、セッティングはデリケートであったとのことでした。ここに時間がかかったようです。

二点目。ハード整備で、専門業者との打ち合わせ等については、どうしたのかと訊ねると、学校側も専門知識を持つ教職員が当たったとのことでした。



### 岡山県洋裁技能競技会

(南部高等専門学校) 二月十三日



### 村田晃嗣同志社大学法学部教授の講演

(岡山県議会「地方公共セミナー」) 二月一日

村田晃嗣同志社大学法学部教授の講演が岡山県議会で行われました。

村田先生の話を紹介します。先生はTVの「そこまで言って委員会」などにも出演され、著名な政治学の先生です。

今回のテーマは米大統領後の日米関係についてでした。

なぜ、トランプは負けたのか。コロナが起るまでは、景気も良かったし、負ける気配はなかった。民主党側の有力候補者たちは、今回は厳しいから次回で勝ちたいとの思いから、今回の立候補は見送り、候補者は若手や七十歳を超えた人が多くなった。それがコロナで事態は急変した。トランプは戦争命令を出さなかった大統領で、戦死者を一人も出していない。これまでの大統領は、多くの戦死者を出し、帰還兵の中にも戦死者と同数ぐらいの自殺者を出していた。そういう点において、評価を受けている面があった。しかし、

コロナで第二次世界大戦での戦死者数よりも多くの死者数を生んでしまった。このことにより、高齢者や子どもを持つ女性の支持が離れてしまった。バイデンという老練な政治家が勝った理由の一つは、そこにあつたとの私見を披露された。

それでは、これからの米国はどうなるのかという点が気にかかる。トランプが負けたと言っても、トランプの岩盤支持者が多くいる。三割はいる。当分の間は、このトランプ支持者とどう向き合うのか、バイデン大統領も、そして、共和党も苦慮するだろうとの見通しを聞かせて頂いた。そして、まだ終わらないコロナということで、現在の米国は、ウイズコロナ、ウイズトランプという面を持っていて、どう舵取りをするかは大変な状況にあるとのこと。さらに、高齢な大統領で



あるので、二期目は考えられないのが、普通であろう。この四年間での仕事を考えると、最初の一年はコロナ対応に終始し、折り返しになると、中間選挙となり、そして、次期大統領選挙を迎える時期となる。こう考えると、実質、一年ぐらいいいか、仕事が出来ない時間はないのではないだろうか。そうすると、バイデン大統領は、どんな仕事を優先してするかを日本としても考えておかなければならない。やはり、中国との関係ということになる。

他にも様々なお話をさせて頂きました。こうした状況も頭に入れて、県政にしっかりと取り組んでいきます。

### 興陽高校訪問

三月四日



オンライン授業の調査

デジタル化の取組を調査。当日は全校一斉オンライン授業日でした。この一年間で、オンライン授業が相応に進ん

だことを感じました。コンピュータルームは家庭にコンピュータ環境のない生徒が使っています。

### 山火事防災策について相談

(岡山西消防署) 三月十一日



### 編集後記

今回の二月定例会議会で「現代アート」を巡る議論があった。瀬戸内国際芸術祭や岡山芸術交流等で現代アートに触れることが多くなったが、私にはなかなか理解できなかつた。今も理解出来ていないとは言えないが、近頃その作家のような見方もあるのだということ。少しづつ分かって来た。そして、そこから、自分とは違う見方、考え方、表現方法があることを知り、新しい気付きを得る。現代アートは難解なものか決めつけず、新しい気付きを求めて行きたい。(M・O)